

新潟福島豪雨災害に思う



総合防災研究部門 部門長 中根和郎

平成16(2004)年7月12日深夜から13日に掛けて、新潟県の三条市や長岡市などの中越地方を中心に日雨量300mmを超える記録的な大雨がもたらされた。このため、信濃川支川の五十嵐川、刈谷田川等の中小河川が越水・破堤し、新潟県下で死者15名、重軽傷者3名の人的被害が発生した。住家の被害は全壊70棟、半壊5,354棟、床上浸水2,141棟、床下浸水6,118棟(表1、消防庁9月10日現在)に達した。死者の多くは70歳以上の高齢者の溺死によるもので、災害弱者への地域住民の支援が改めて問われる結果となった。今回、被害を大きくしたのは住宅地近傍の河川堤防が破堤したことによるもので、住宅地へ濁流が流れ込み、低地の浸水深は2mを越え、家屋を全半壊させた(写真1)。水が引いた後には細かい泥が壁の上に30~40cmも堆積した。水を含んだ泥は重く、へばりついて、その除去に多大の労力が費やされた。

当時、日本海から新潟県・福島県付近に梅雨前線が停滞していた。その前線に沿って、低気圧が東進し、梅雨前

線の活動が12日の夜から活発となった。強い雨雲が次々と日本海から中之島町、見附市の方向に上陸し、この地域に長時間の豪雨をもたらした。アメダスの栃尾観測所(表1)では最大60分間雨量62mm、日雨量421mmを観測した。これは従来の記録169mmを遙かに超えるもので、2004年を含む25年間の解析によれば106年の超過確率の豪雨であったことが分かった。このような豪雨が五十嵐川や刈谷田川の流域にもたらされ、河川は持ちこたえることが出来ず、越水・破堤してしまった。場所は異なるが同様の豪雨は平成10(1998)年8月4日にも発生しており、新潟地方気象台(表



写真1 新潟県中之島町中之島の刈谷田川破堤地点付近の倒壊家屋

		人的被害(人)		家屋被害(棟)				降雨状況(mm)				
		死者 行方不明	重軽傷者	全壊	半壊	床上	床下	観測点	最大60分雨量	最大3時間雨量	最大6時間雨量	最大日雨量
1	新潟県	15	3	70	5,354	2,141	6,118	栃尾	62	134	275	421
2	福井県	5	19	65	141	4,324	9,873	美山	96	175	254	283
3	新潟県	1	-	3	14	2,209	12,813	新潟	97	143.5	210.5	265

1:平成18年7月新潟福島豪雨災害、被害は消防庁調べ平成18年9月10日現在、降雨状況はアメダスデータ

2:平成16年7月福井豪雨災害、被害は消防庁調べ平成18年9月10日現在、降雨状況はアメダスデータ

3:平成10年8月新潟地方豪雨災害、被害は消防庁調べ平成10年8月10日現在、降雨状況はアメダスデータ

表1 新潟福島豪雨災害および福井豪雨災害の被害状況・降雨状況

1)では最大60分間雨量97mm、日雨量265mmの局地的な豪雨を観測した。このような河川の計画規模を上回る豪雨は各地で起こることが予想され、今後多くの中小河川で同様な災害が発生することが懸念される。

7月14日以降も、梅雨前線活動は低気圧の東進に伴って活発となり、福井地方では7月18日未明から大雨となった。足羽川上流の美山観測所(表1)では最大60分間雨量96mm、日雨量283mmの局地的な豪雨を観測した。このため、足羽川は各所で越水・破堤し、川に架かっていた越美北線の鉄橋が5カ所で流出した。特に、福井市春日で足羽川が破堤し、濁流が市内に流れ込み、床上浸水などの大きな被害が発生した。浸水深は深いところで1.67mに達したが、多くの地域は1m前後であった。福井地方では新潟地方と比較して、降雨強

度が比較的大きかったため、山腹溪流の多くで多量の土砂が流出し、沢沿いの多くの家屋が全半壊した。これらは昼間の出来事であり、沢から水が溢れだし、付近の住民は危険を感じ避難していた。その後、溪流を土石流や土砂流が襲ったので人的被害は少なかった。この災害による福井県の被害は表1に示すとおりである。

一方、新潟では情報の発信・伝達、災害弱者に対する地域の救援・救助等多く問題が重なり合って多数の人的被害が発生してしまった。この地域の災害情報がどの時機に発信され、それらを基にどのような緊急対策が取られたかを調べ図1に整理した。このような情報を災害毎に整理し、共有化することにより、今後の地域防災情報の発信と、緊急対策を検討する参考にしたいと思っている。

